

知の創造

大学は高校までとは全く違うところです。

高校までは、**知**はすでにあるものでした。それは、例えば教科書に書いてあり、学生はすでに存在する**知**を憶えたり、**知**をちょっと応用して問題を解いたりすることで優劣を競いました。**知**が教科書に書いてなければ、少し難しい参考書を読んだりすればよく、勉強をするということは、どこかにある**知**（あるいは正解）を探すことでした。

では、教科書に書いてあるような**知**はどこから来たのでしょうか？ 偉い学者が見つめてきたものですか？ では、その「偉い学者」というのはどこにいますか？

「偉い学者」に相当する人は大学に居ます。実は、入学の時にあなたを案内してくれた教授や大学院生がその人（達）なのです。「全然偉く見えないよ。」ですか？ それは正しい。なぜならば、どんなにいばっていても、新しい**知**を生み出すことなんかできないからです。偉いと言うのはそういう意味ではありません。「神奈川大学にそんな学者がいるの？」ですか？ 大学というのは、学者が集まってできているのです。神奈川大学も、もちろん例外ではありません。大学は、新しい**知**を創造するところです。それが大学を高校までとは決定的に違うものとしています。高校までで皆さんが習ってきた**知**は大学で生み出されたのです。「ふーん、そうですか」などと他人事のように言っている場合ではないのですよ。なぜならば、皆さんが大学に入学したのは、皆さんが自分で**知**を生み出すためだからです。大学の、そして大学生の存在意義はそれ以外にありません。

知は研究によって創造されます。研究とは「これをこうやったらどうなるのだろう」「こういうふうに考えたらどういうことになるだろう」というように、自分の好奇心を満足する行為です。もし、それがすでに分かっていることであるならば、そんなことは本を読めばよろしい。そうではなく、今まで誰もやったことがないこと、誰もやろうとすらしたことがないこと、そういうことをやってみて「なるほどこうなるのか」と満足する行為が研究です。そうして得た知識が集まって体系化され、**知**となるのです。

テレビなどに「人類のために〇〇を解決しようと研究をする科学者」のようなものが登場することがありますが、そんな人は大学にはいません。大学での研

究とは自分の興味のためにやるのです。それが最終的には人類のためになるとしても。

さて、どうやって研究をしましょう。

大学に入りたてのあなたは今すぐに研究ができますか？ それは無理でしょう。どうやって研究をするのか、やり方がわかりません。ある結果が得られたとして、それが正しいのかどうかを判断することもできません。現在何が分かっていて何が分からないか、ということもわかりません。

大学に入ってから、まずすべきことは、研究をするための基本的な方法と手段、正しいかどうかの判断の論理、世界中の全ての**知**にアクセスする方法とそれを理解するための基本的な学問、そういったものを学ぶことです。これらのうちいくつかは、一見、高校までの勉強と同じようなものに見えるかも知れません。しかし、大学においては「自分が研究をするために学んでいる」という点で、目標が全く違います。

学部によって違いますが、例えば理学部では4年生になると実際に研究を始めます。それは研究である以上、当然、世界の最先端の内容を取り扱い、場合によっては新聞に載り、教科書を書き換え、ノーベル賞を取る内容です。したがって、皆さんには世界一の研究ができるように準備していくことが要求されます。それが、まさに大学で学ぶべきことなのです。

大学で学ぶべきことは、高校までとは全く違います。

大学では**知**は自ら創造されます。もちろん、新しい**知**は過去の**知**を前提に創造されますから、過去の**知**（学問）を学ぶことは絶対に必要です。しかし、それと同じく大事なことは、**知**を創造するための心構えを養うことです。

第一は目標設定です。夢以上の結果を出すことはできません。目標を低く、安全確実なレベルに設定したら、それ以上には絶対になりません。どのような場合にも、常に世界一を目標にするように心がけましょう。そうすれば、大学を卒業するときには、自分が驚くほどの高みまで上っていることがわかるでしょう。

第二は努力です。2倍の研究をすれば2倍の**知**が得られ、2倍の満足が得られます。勉強でも、スポーツでも、文化活動でも、恋愛でも、アルバイトでも、あらゆる機会を捉えて努力する習慣を身に付けましょう。どのような天才でも

努力なくして結果はありません。恥ずかしいのは努力をすることではなく、努力しないことです。

第三は意見を公表することです。相手の意見に対して自分の意見を主張できるようになることは、研究をするためだけではなく、より良く生きるために大学の中にぜひとも学んで欲しいことです。相手の意見をきちんと聞き、それに対して、陰でこそこそと何かを言うのではなく、正面から応答をしましょう。認めるべきものは認め、分からないなら分からないと言いましょう。分かるように説明できないなら、説明する方が悪いのです。

大学では高校までとはルールが違います。本に書いてあるような何かを知っているからと言って、偉くも何ともありません。本当に偉いと言うのは、過去の**知**に捕らわれない、全く新しい**知**を創造できる能力を言います。それは勉強ができるとか偏差値などという指標とは全く別のものです。ですから、今、皆さんの前には、これまでとは全く違った可能性が開けているのです。新たな勝負を楽しんでください。